

2月28日。初登庁の日  
多くの支援者に迎えられ、庁舎へと歩む



この度の任期満了にともなう町長選挙で不肖、私が町政を担うこととなり2月28日から仕事を開始しました。議員として12年間の経験はありますが行政運営の十分な経験や知識はありません。職員と協力をして一步一步着実に町政を前進させたいと考えています。みなさまのご期待に応えられるように頑張ってください。ご支援・ご協力をお願いいたします。

# 苦勞して生活している「みなさんの」 思いを受けとめられる町長でありたい

今後の町政運営の基本方針を説明いたします。

私は、職員はもとより、議会や区・関係団体など、みなさんの意見を幅広く聞いて町政を運営してまいります。町民だれでも幸せに生きる権利をもっているという原点に立ち、行政として最大限の応援をしていきます。

苦勞して働いている方々、生活が大変な中でやりくりしながら暮らしている方々の、思いを受けとめられる町長でありたいと思います。

本来、地方自治体は住民に接し、最も身近な行政としての重要な役割があります。しかし、国や県の影響を受け、指導の強化や財政的な規制が強まり、住民に目を向けない官僚的な傾向が強まり、住民の声が行政に届きにくい体制や、行政運営の傾向がみられることは大変に残念です。

こうした現状に対して、住民に接して行政サービスを提供している地方自治体として、本来の地方自治はどうあるべきか、もつと輝かせようという視点からの改革を進めます。

## 同和事業を完全に廃止。 予算の支出は行いません

同和事業は完全に廃止します。

2月28日から原則として同和関係の予算の支出を一切行わない措置を採りました。時間の関係で訂正できなかった同和関係の新年度予算も、一切の支出を行いません。

これによって同和事業は基本的に完全終了しました。

町と部落解放同盟御代田町協議会との関係も全て打ち切りました。関係者との対応は、すべて私が行います。

なお、個々に対応が必要な事業は、私の責任で、必要なチームを編成して対応します。

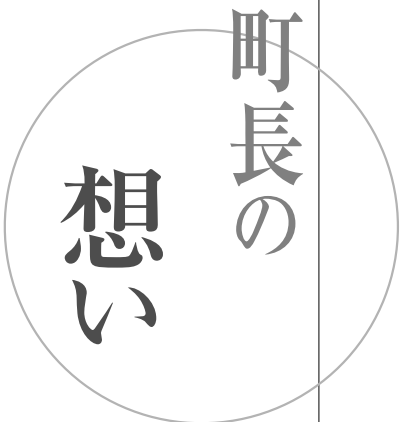
## 同和事業の廃止は 全ての町民が平等となる 明るい町づくりの出発点

部落問題は、これまで実施してきた特別対策によって、すでに町全体で見ても実態がなくなりつつあるところまで解決が進んできました。それなのに、町が更に予算をかけて特別対策を行ったことが「逆差別」の意識を一般町民に植え付ける結果になりました。

また、同和事業を続ければ「同和地区」「同和地区出身者」という差別を固定化し、いつまで経っても部落差別は無くなりません。

今回の同和事業の完全廃止は、これまでの「部落」と「一般」という行政上の垣根・障害物を完全に打ち払うもので、部落問題の根本的な解決となるものです。町の歴史にとって、まさに画期的な改革です。これによって、全ての町民は平等で、自由に発言できる明るい御代田町の出発点になると確信しています。

町の事業は、全ての町民に対して、分け隔てなく平等に実施し、同和事業で削減した予算は、町民全体の暮らしの応援に使います。



# 茂木 祐司

第15代御代田町長